



## 櫛田川流域の概要

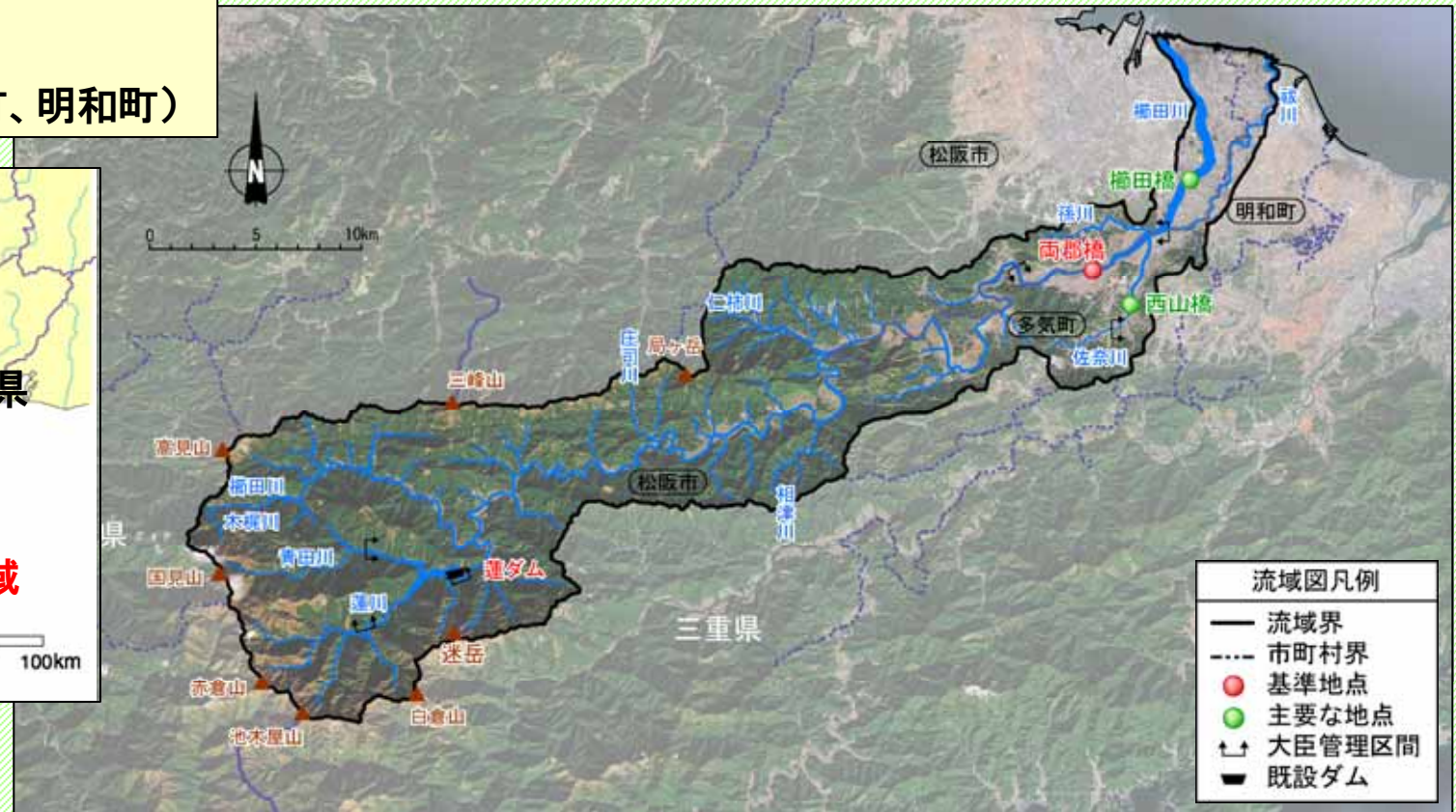


平成22年7月20日

# 櫛田川の諸元

櫛田川は、その源を三重県松阪市と奈良県吉野郡東吉野村の県境に位置する高見山(標高1,249m)に発し、蓮川、佐奈川等の支川を合わせた後、<sup>はらい</sup>祓川を分派し伊勢湾に注ぐ幹川流路延長87km、流域面積436km<sup>2</sup>の一級河川である。

源流 高見山(1,249m)  
流域面積 436km<sup>2</sup>  
幹川流路延長 87km  
構成市町村 1市2町  
(松阪市、多気町、明和町)



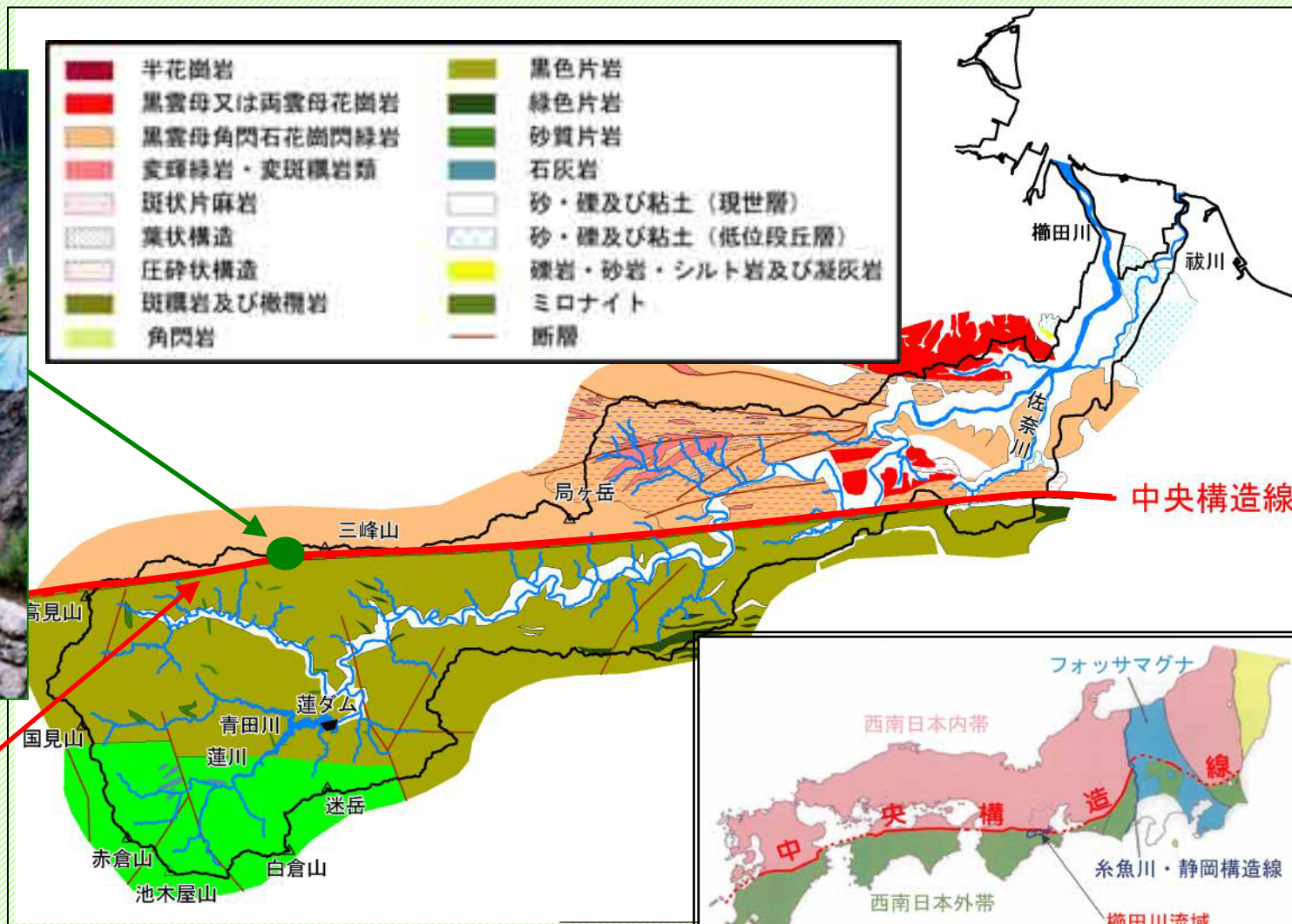


# 流域の地質

櫛田川流域では東西に中央構造線が走り、地質が南北に二分している。



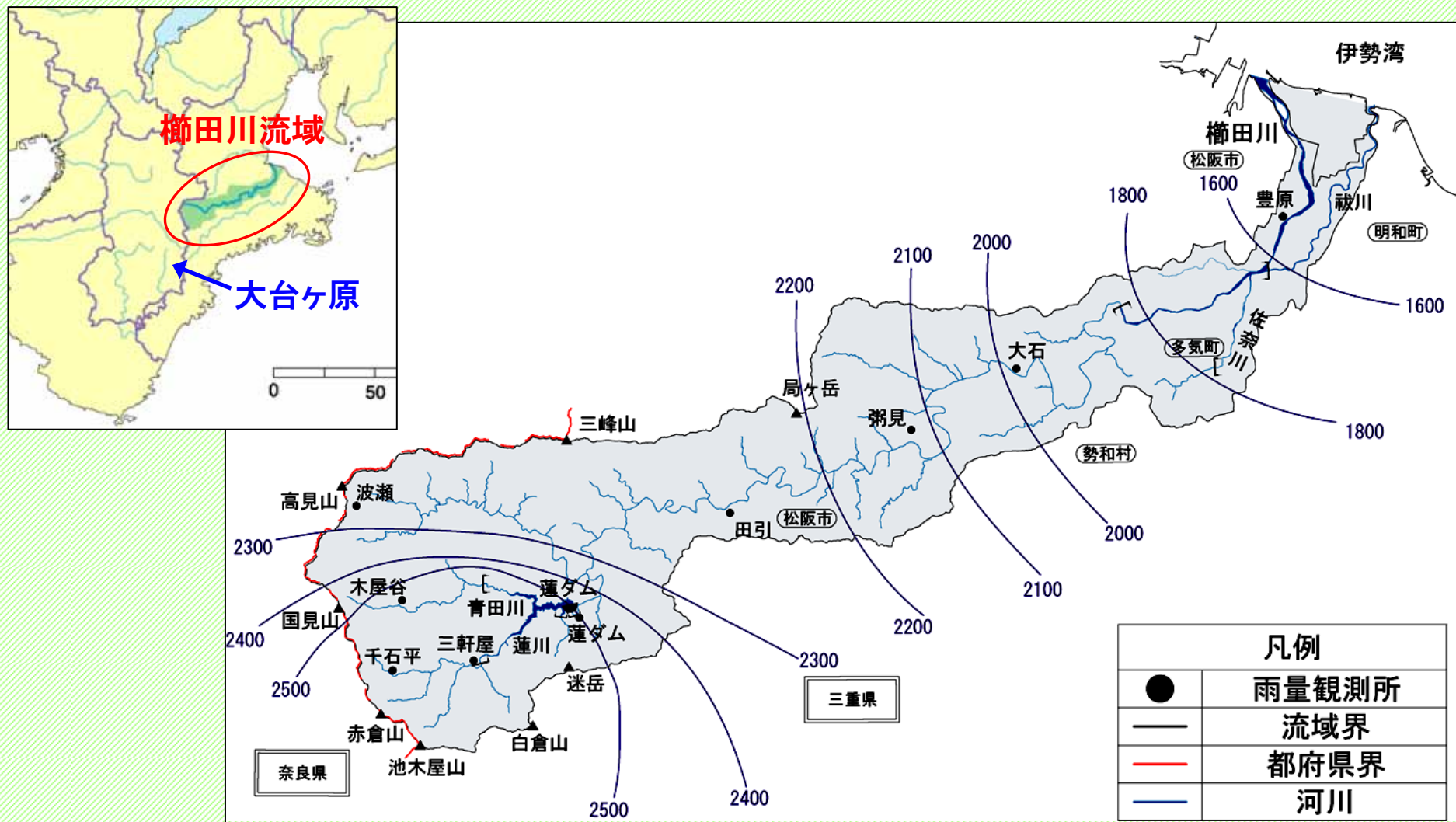
中央構造線



流域地質図

# 流域の気候

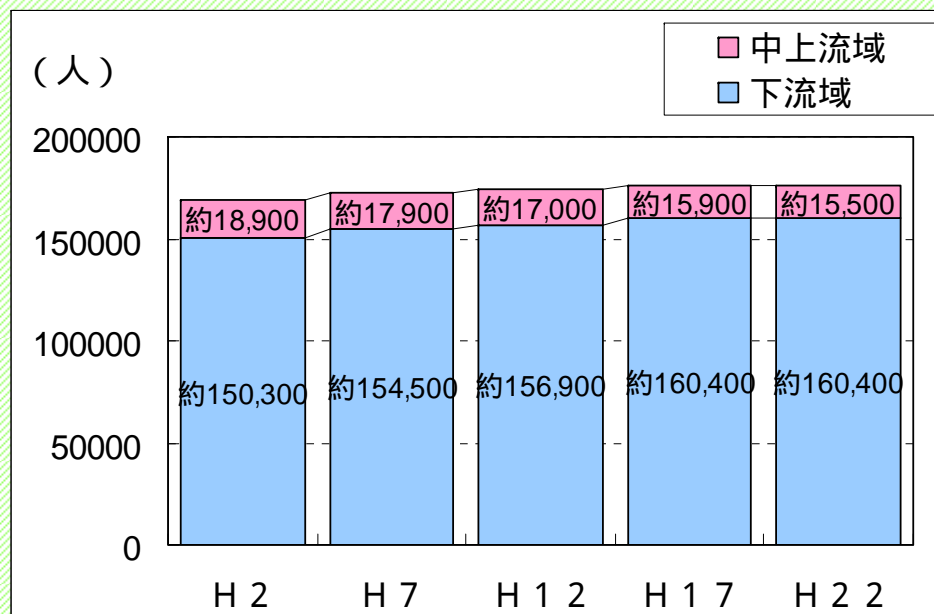
流域の気候は、上流域は日本有数の多雨地帯である大台ヶ原に隣接することから年間降水量が2,500mmを越え、中下流域は1,600mm～2,200mmとなっている。



年平均降水量の分布図(平成元年～平成20年平均)

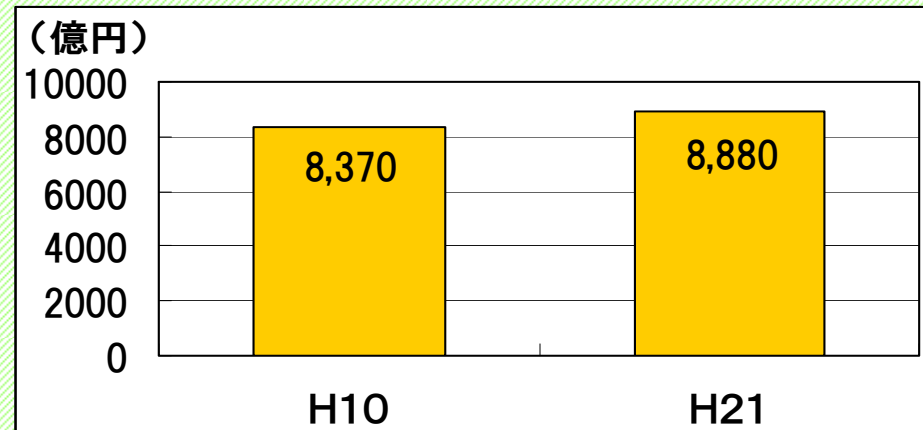
# 流域の人口・資産・土地利用

流域市町の人口は、下流域では約16万人、中上流域では約1.5万人となっており、氾濫域の資産は約8,880億円となっている。

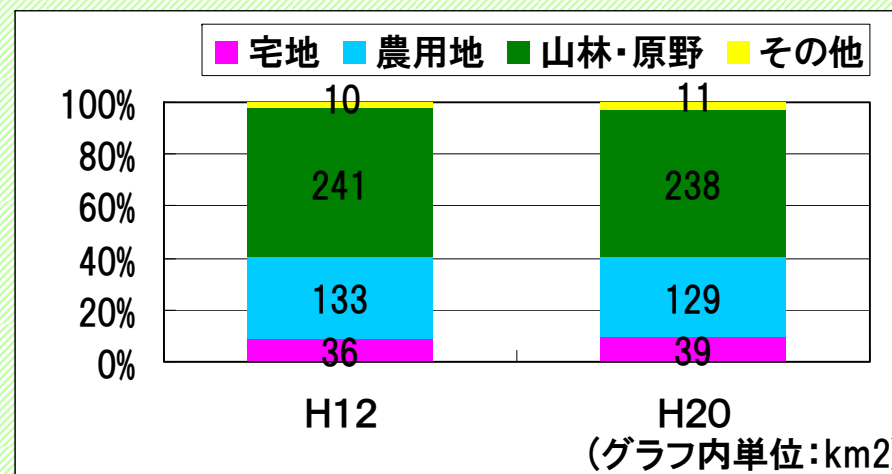


流域市町人口の変遷

下流域 : 松阪市(本庁管内)、明和町、多気町(旧多気町管内)  
 中上流域 : 多気町(旧勢和村管内)、松阪市(飯南町)、  
 松阪市(飯高町)



氾濫域資産の変遷



沿川市町の土地利用の変遷  
 現松阪市、多気町、明和町の合計



# 流域の交通網

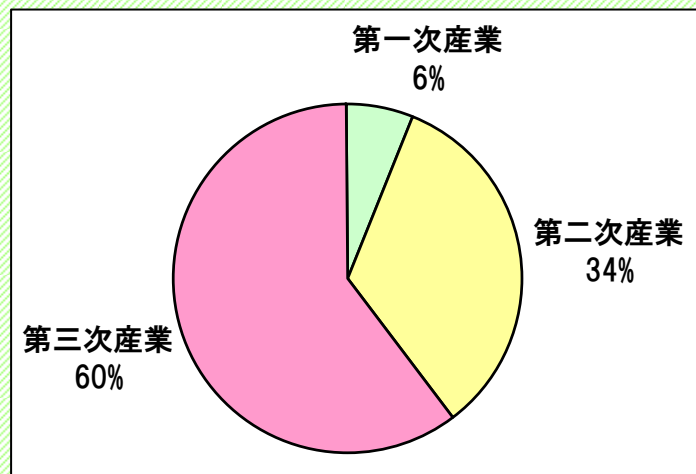
JR紀勢本線、JR参宮線、近鉄山田線の鉄道や伊勢自動車道、国道23号、42号、166号などが通り、名古屋や大阪方面とこの地域を結ぶ動脈として機能している。



流域の交通網

# 流域の産業

流域の主な産業は、松阪牛に代表される農業(茶、椎茸)のほか、食品産業(海苔)、電気機械産業であり、近年は三重県のクリスタルバレー構想に基づき、多気工業団地の整備が進められ、FPD産業の誘致が進んでいる。



産業別就業者数(平成17年)



多気工業団地



松阪牛



飯南茶

## クリスタルバレー構想

「21世紀の成長産業である液晶をはじめとするFPD産業の世界的集積を目指す」ものであり、新しい総合計画「三重のくにづくり宣言」(平成9年)の「第二次実施計画(H14~H16)」に位置付けられ、多気工業団地には、シャープ(株)を誘致済みである。

## FPD産業

液晶ディスプレイやプラズマディスプレイなどの筐体が板状で画面が平面になっているディスプレイ機器。

# 流域の歴史・文化

- やまとひめのみこと 倭姫命が天照大神の鎮座地を求めて諸国を巡った際、この地で櫛を落とされたことからこの名がついたとされている。これにない歴代の齋王は群行の際、櫛をこの川に捨て神に仕える決心をしたといわれている。
- 古来より伊勢、大和、紀伊方面に通じる街道が開け、交通の要衝として繁栄した。奈良時代初期には丹生にゅうで水銀が採掘され、奈良東大寺大仏の鑄造などに使用された。また射和いざわ軽粉の原料として利用され、射和商人が莫大な富みを得て発展した。



街道図



にゅう  
丹生の水銀鉱山跡

奈良時代に発見された日本最古の水銀鉱山であり、射和軽粉の原料にも利用された。



いざわ  
射和商人の古い町並み

射和軽粉により莫大な富を得た射和商人の名残を残す町並みが、ちゅうま中万～射和にかけて続いている。



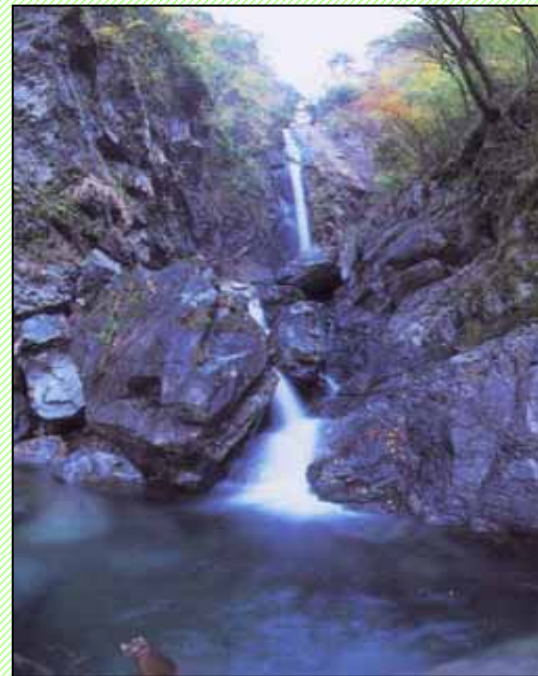
# 上流部の特徴

1,000m級の山々が連なる山間地帯を溪流となって流れ、溪谷が発達している。  
上流部は、<sup>むろうあかめ</sup>室生赤目青山国定公園に指定されている。



高見山

波瀬～高見山付近



宮の谷、高滝



# 中流部の特徴

大小の屈曲を繰り返して河岸段丘の谷間を流れ、至る所で岩盤が露出し、砂州や瀬・淵が連続している。

かほだ  
上中流部は、香肌峡県立自然公園に指定されている。



あこ  
赤桶付近



えびすがわら  
恵比寿河原



つづらくま  
九十九曲付近





# 下流部の特徴

沿川には田園地帯が広がり、頭首工の湛水区間が連続し、流れの緩やかな区間が連続している。河岸には河畔林が繁茂するほか、伊勢湾に注ぐ河口部には干潟が広がる。



河口干潟

河口干潟は「日本の重要湿地500」に選定されている。



河口部



連続する河畔林(両郡橋付近)



櫛田可動堰の湛水域

## 佐奈川、祓川の特徴

佐奈川は、櫛田可動堰の湛水区間である合流点付近に湿地が広がり、タナゴ類などが生息している。

祓川は、昔からの自然を残し、また沿川には国指定の史跡である斎宮跡などが存在するなど、豊かな自然と歴史をしのばせる空間として親しまれている。



佐奈川合流点付近



祓川の河畔林

祓川は河畔林や抽水植物など自然が豊かであるとともに「日本の重要湿地500」に選定されている。



# 主な災害

過去の災害としては、昭和34年9月の伊勢湾台風をはじめ台風に起因する洪水が多く、また近年においても大きな出水が度々発生している。

## 主要洪水一覧

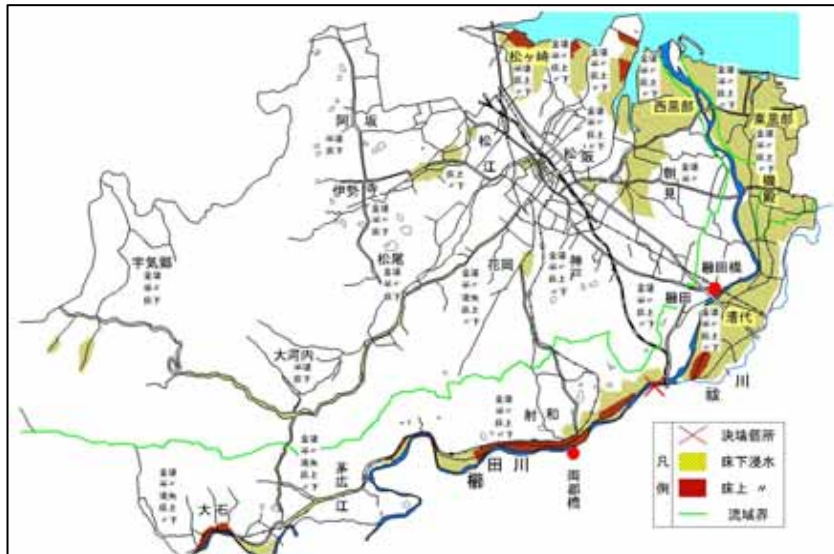
発生年月	原因	流量 (両郡橋地点)	被害状況
昭和34年9月	伊勢湾台風 (台風15号)	約4,800m <sup>3</sup> /s (推定流量)	死者・行方不明者16人、負傷者248人、被災家屋3,814戸
昭和49年7月	台風8号	約2,000m <sup>3</sup> /s	田畑の冠水や道路損壊、山崩れ、家屋被害が発生
昭和57年8月	台風10号	約3,400m <sup>3</sup> /s	直轄管理区間の被害は、浸水面積4ha、被災家屋13戸
平成2年9月	台風19号	約3,600m <sup>3</sup> /s	直轄管理区間の被害は、浸水面積0.6ha、被災家屋1戸
平成6年9月	台風26号	約4,100m <sup>3</sup> /s	直轄管理区間の被害は、浸水面積0.15ha、被災家屋2戸
平成9年7月	台風9号	約3,100m <sup>3</sup> /s	田畑の冠水や道路・橋梁の損壊の被害が発生
平成16年9月	秋雨前線 台風21号	約3,900m <sup>3</sup> /s	直轄管理区間の被害は、被災家屋2戸

流量：ダム・氾濫戻しの流量(計算)

# 主な洪水被害

昭和34年9月洪水(伊勢湾台風)では、死者・行方不明者16名を出す甚大な被害が発生した。  
平成6年9月洪水では流量観測史上最大の洪水となり、相可地区で家屋の浸水被害が発生した。

## 昭和34年9月洪水(伊勢湾台風)



伊勢湾台風浸水区域図

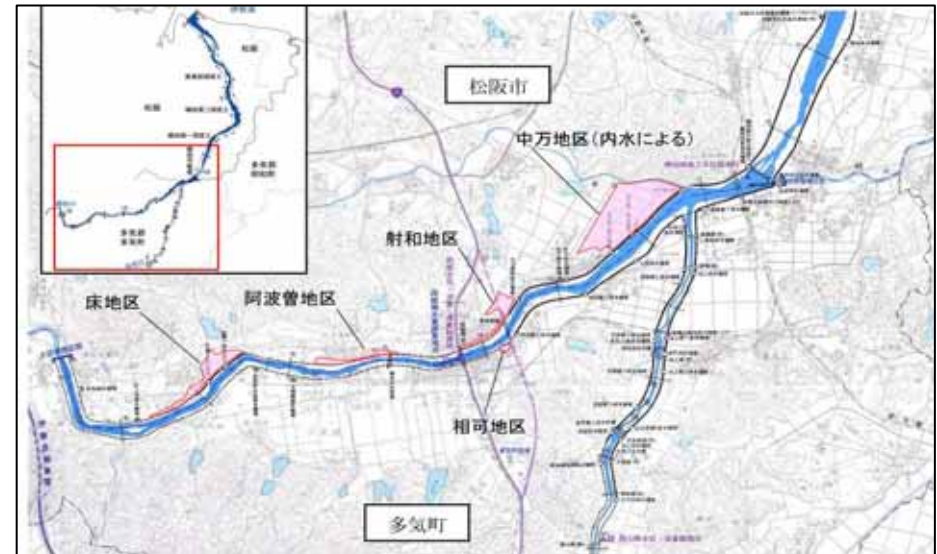


松名瀬橋(松阪市松名瀬町)の流失状況



松阪市射和町の浸水後の状況

## 平成6年9月洪水



H6年9月洪水浸水区域図



洪水痕跡  
(櫛田川右岸3.4k付近)



漏水の状況  
(櫛田川左岸2.6k付近)



## 治水への取り組み

昭和34年9月の伊勢湾台風による甚大な被害に鑑み、昭和37年直轄事業として河川改修に着手し、昭和42年に一級水系の指定を受け、昭和43年に工事実施基本計画を策定した。

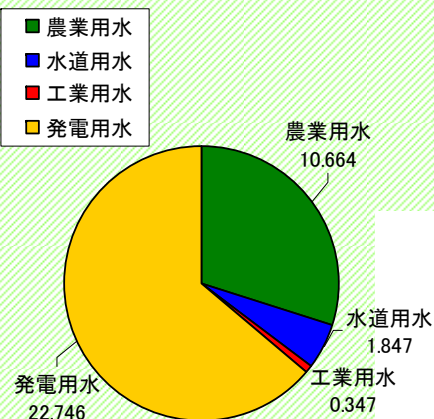
また昭和44年に流下能力上最もネックとなっていた櫛田川頭首工の可動堰化を実施し、平成3年には蓮ダムを竣工した。

平成9年の河川法改正に伴い、平成15年に河川整備基本方針を策定し、平成17年に策定した河川整備計画に基づき、現在、河川改修事業を進めている。

年月	河川改修の経緯
昭和34年 9月	伊勢湾台風
昭和37年12月	直轄管理区間に指定
昭和42年 5月	一級河川に指定
昭和43年 2月	工事実施基本計画策定 基本高水ピーク流量 4,800m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 4,300m <sup>3</sup> /s
昭和44年 3月	櫛田川頭首工(櫛田可動堰)可動堰化完成
昭和49年 4月	蓮ダム建設事業着手
平成 3年 9月	蓮ダム竣工
平成15年10月	河川整備基本方針策定 基本高水ピーク流量 4,800m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 4,300m <sup>3</sup> /s
平成17年 8月	河川整備計画策定 目標流量 4,100m <sup>3</sup> /s 河道整備流量 3,500m <sup>3</sup> /s

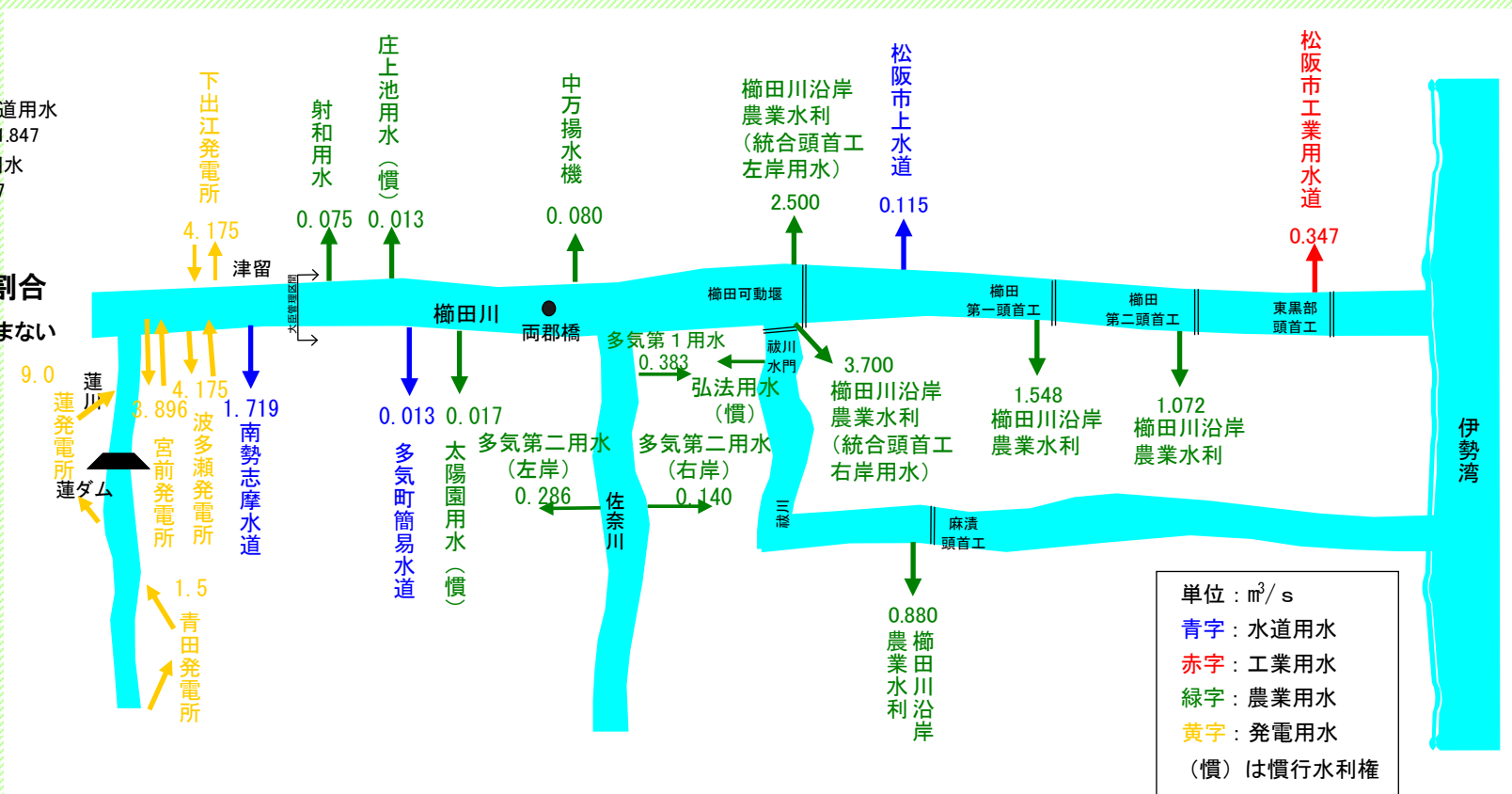
# 櫛田川の水利用

古くから農業用水として利用され、水田の開拓に寄与してきた。  
近年は、水道用水、工業用水の水源として地域の生活及び経済を支えている。



## 櫛田川水系の水利用の割合

※慣行水利権の水量不明分は含まない



## 主な用水の取水位置

単位: m³/s  
 青字: 水道用水  
 赤字: 工業用水  
 緑字: 農業用水  
 黄字: 発電用水  
 (慣) は慣行水利権



# 櫛田川を特徴づける環境

河口部の干潟は、アイアシ、フクド、ハマボウなどの海浜性植物が繁茂するほか、シギ・チドリ類の集団分布地となる等、多様な生物の生育場となっている。

両郡橋下流や東黒部頭首工下流では、アユの産卵場となっている。

高水敷の河畔林は、サギをはじめとした鳥類の集団営巣地など、多くの鳥類の生息・生育の場となっている。

両郡橋上流などでは、優れた景観も存在している。



高水敷の河畔林(魚見橋上流)



河口部の干潟



連続する河畔林(両郡橋上流)

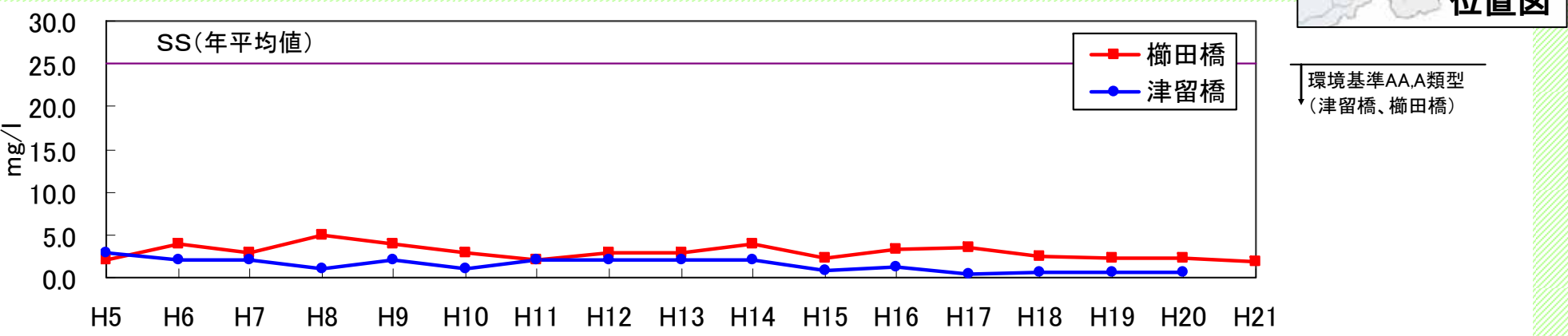
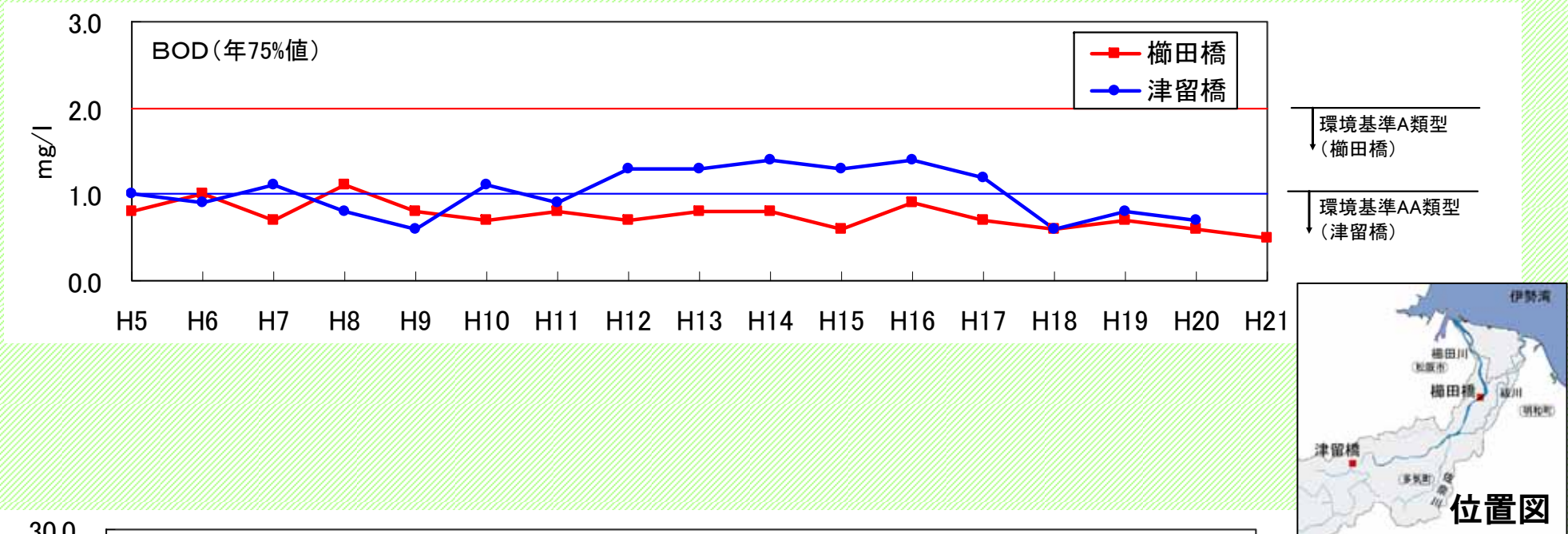


アユ産卵場となる瀬  
(両郡橋下流)



# 河川水質の推移

櫛田川の水質は、BOD75%値、SSについて見ると、概ね環境基準値を満足している。





# 河川空間の利用状況

高水敷に整備された河川敷公園や桜つつみ公園などは、スポーツや散策など住民の憩いの場として利用されている。



河口部の潮干狩り  
(櫛田川0.0k付近)



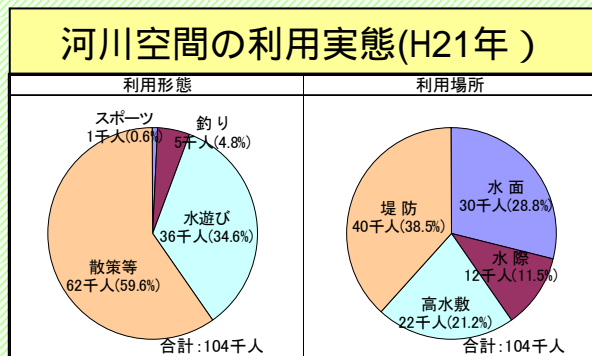
魚釣り  
(櫛田川左岸1.2k付近)



河川敷公園  
(櫛田川右岸4.2k付近)



佐奈川桜つつみ公園  
(佐奈川右岸0.2k付近)



数字は年間利用者数(推計値)